

女の子の初節句・父方の祖父母からのお祝い人形

お雛様をお迎えする、お人形

市松人形、お出迎え人形

江戸中期の人気歌舞伎役者であった佐野川市松が江戸の中村座で公演した際、石脇模様の袴を使つたのが評判になり、佐野川市松と共にこの模様が大流行しました。以来この模様を市松模様といつてています。そしてこの頃、佐野川市松の容姿を模して作られた人形が大はやりし、その後このような人形を市松人形と称するようになりました。

一般的には、お雛様はお母さんの実家から贈られるのですが、「可愛い孫のためにせめて何かお祝いをしてあげたい」という、お父さん側のおじいちゃん、おばあちゃんが『お出迎え人形』と称して、市松人形を用意する例が増えました。お母さんの実家から届くお雛様をお出迎えする人形というわけです。市松人形もお雛様と同様に形代の役目をすると昔から言われています。市松人形を初節句の赤ちゃんのために用意し、今あるお雛様と並べて飾つて、初節句のお祝いをしても良いでしょう。



つるし飾り

江戸時代から伝わる風習で、友禅で作った縁起物を、竹ひごの輪から赤い糸に下げる雛壇の両脇に吊します。





女の子の初節句・ひな飾り

女の子の初節句・お祝いに贈るお人形

いつでも飾つておきたい記念のお人形

ケース人形

初節句のお祝いにお人形を贈る場合少なくとも1ヶ月以上前に贈るようにしましょう。ケース人形は種類も多く、大きさも様々です。人形によっては時期を選ばないものがありますので、常に飾つて置いてもよいでしょう。

ひな祭りの時は雛人形と一緒に飾れば、よりお祝いの雰囲気が出ると思います。

